



小説家。肥後国葦北郡水俣(現、熊本県水俣市)出身。本名は健次郎。言論人であり評論家の徳富蘇峰は実兄。蘇峰と共に京都の同志社英学校(現、同志社大学)に入学する。明治22(1889)年、蘇峰の設立した民友社に入社して執筆を中心とする仕事を始め、翌年創刊の『国民新聞』の担当となり徐々に紀行文や創作文を発表するようになった。やがて同新聞連載の、大山巖の長女・信子の悲劇をモチーフとした長編小説『不如帰』で人気を博して明治文学の中でも有数の作品となったが、このことが経済的及び精神的自立の獲得につながった。

愛媛には明治18(1885)年、今治教会の牧師で従兄の横井時雄がいた今治に来訪したことがあるが、長編小説『黒い眼と茶色の目』に今治での生活のことが述べてあり、また、『思出の記』では、今治でのことを宇和島でのこととして描いている。

略歴

明治元(1868)年10月25日	肥後国葦北郡水俣に生まれる。
明治11(1878)年	蘇峰に連れられ京都に行き、同志社英学校に入学
明治13(1880)年	同志社英学校を退学して熊本に帰郷
明治18(1885)年	姉とともにメソジスト教会で洗礼を受ける。 従兄のいる今治に来訪、四国初のプロテスタント教会で伝道に従事し、そのかわらで英語の教師として町の青年たちに教える。
明治19(1886)年	京都に移り、同志社英学校に再入学
明治21(1888)年	熊本の熊本英語学会(やがて熊本英学校と改称)の教師になる。
明治22(1889)年	上京して蘇峰の経営する民友社に記者として入社
明治23(1890)年	国民新聞社に配属。翻訳や評論、短編小説などを発表
明治31(1898)年11月	『国民新聞』に「不如帰」を連載開始(同32年5月まで)
明治33(1900)年1月	『国民新聞』に「おもひ出の記」(のち「思出の記」と改題)を連載開始(同34年4月まで)
明治39(1906)年	聖地パレスチナへの巡礼に出て、ロシアでトルストイを訪問
明治44(1911)年	大逆事件の判決に憤り、歎願文を書いたり、講演を行う。
大正2(1913)年	『国民新聞』に小説の連載を始めたが、突然中止し、以後死直前まで兄の蘇峰と絶交状態
大正7(1918)年	旅行の途中で越智郡今治町(現、今治市)を訪問
大正8(1919)年1月	夫妻で世界一周旅行に出発(同9年3月帰国)
昭和2(1927)年9月18日	兄・蘇峰と対面して和解。その夜60歳で永眠。墓所は、東京都世田谷区粕谷の蘆花恒春園。

(写真提供：蘆花恒春園「蘆花記念館」)

〈関連図書〉

- ・徳富蘆花『蘆花日記』 筑摩書房 1985年
- ・徳富健次郎『黒い眼と茶色の目』 岩波書店 1987年
- ・河野仁昭『蘆花の青春 その京都時代』 恒文社 1989年
- ・阿部軍治『徳富蘆花とトルストイー日露文学交流の足跡ー』 彩流社 1989年
- ・徳富蘆花『不如帰』 スタイラス社 1990年
- ・徳富蘇峰『弟徳富蘆花』 中央公論社 1997年
- ・徳富蘆花『徳富蘆花集』 日本図書センター 1999年

〈ゆかりのある場所〉…(P308, 178)

〈関連施設〉…徳富蘇峰・蘆花生家

〒867-0065 熊本県水俣市浜町2丁目6-5 TEL: 0966-62-5899

徳富蘆花記念文学館

〒377-0102 群馬県渋川市伊香保町伊香保614番地8 TEL: 0279-72-2237

くまもと文学・歴史館

〒862-8612 熊本県熊本市中央区出水2丁目5番1号 TEL: 096-384-5000